

一般にプロダクト・デザインとか、インダストリアル・デザインと呼ばれているものの対象は、具体的にどんなものがあるでしょう。皆さんに馴染みやすいものとしては、例えば車、普通乗用車から業務用車両、バス・トラックなどがあげられます。

そのほかにもトランスポーター・デザイン（輸送機関のデザイン）の категорияとして人や物を輸送するための電車・汽車・船舶・航空機・はてはスペースシャトルなどが考えられます。それに家庭電化製品、これこそ数え上げられないくらい各種の製品が日常生活の中で使用されています。

そのほか建物を考えてみても、従来工法の建築はもちろん建築デザインの仕事ですが、プレファブ工法によって作られる建造物は、プロダクト・デザインの領域にも関わってきます。玄関ドアに代表されるような各種建具、建材なども、とくにプレファブ住宅においては業製品として考えられています。住環境に関して言えば、建築デザイン、インテリア・デザイン、そしてプロダクト・デザインの相互の関連によって統合されているといつてよいでしょう。

プロダクト・デザインを単純にいつてしまえば工業技術という手段を用いて生産される物や道具のデザインであるといえます。

そこで自分の手にする物や道具をちょっと考えてみてください。今、私自身、原稿用紙に万年筆で原稿を書いています。そのほか筆記具・ノートなどはステーションナリー・グッズと呼びますが、最近デザイン的にも洗練されたものが少なくありません。

原稿を書くためには机・椅子も必要だし、明るさを確保するためには照明器具も必要です。これらのデザインは、インテリア・デザインの領域でもありますが、プロダクト・デザインとして考える場合には、量産化や標準化といった要素が重要となってきます。

この場合の量産化というのは、別に大量生産ということだけではなく、少量であってもよいのです。原則的に言えば、芸術作品のように一品制作ではないということです。

さて、原稿を書き、疲れてくると音楽を聞いたり、コーヒーなどを飲みながらリフレッシュしたくなります。

そこで今はやりの CD プレーヤーや AV 装置、もちろん、テレビいやビデオを見てしまっただけでは仕事にならないので、軽快な音楽を楽しみたいくなります。そしてコーヒーブレイクのためにはコーヒーを入れる道具が必要です。飲むための道具としてティーカップ、スプーン、シュガーポット、ミルクポット、皿など、あつという間にたくさんの物や道具が顔を出してきます。それぞれ生活に必要な道具たちです。

原稿ができるのと至急の場合にはファクシミリという便利な道具もあるし、ワードプロセッサ（ワープロ）という便利な道具もあります。パソコン使用のものであれば、電話回線を利用して瞬時にどこにでも送信することが可能です。

このように生活の様々な局面で必要なものや道具をいかに人が利用し易い形にまとめあげるか、それを考えるのがプロダクト・デザインの大きな役割なのです。

そのためには人にとって必要なものとは何か、また、物や道具の持つ働き（私たちはこれを機能と呼んでいますが）を明確にすることが大切で、この機能がうまく発揮されるような形態を与えることが重要な仕事です。そしてデザイナーの成果というものが多くの人々に受け入れられ、支持されることが望まれるのです。今まで私たちの身の回りを見渡しただけでも、すでにたくさんの物や道具がプロダクト・デザインの対象であることが分かったと思います。